

はじめに

現代神学のフロンティア
— 多様化する潮流 —

小原 克博
<http://www.kohara.ac>

毎回の授業の構成

宗教情報
(約10分)

質問・感想に
対する応答
(約10分)

講義
(約70分)

2

成績評価

評価方法	割合
学年末レポートによる評価	60%
出席による評価	40%

3

20世紀後半における
神学的課題

- 伝統の変容、**コスモロジー**(世界観)の変遷が現代に重層的な課題を与えている。
- 20世紀中頃においては、世界観・コスモロジーと信仰を切り離す傾向が強かった。
 - 例: R.ブルトマン(聖書の実存的解釈)
- 1970年代以降、**コスモロジー**の重要性が見直されてきている。

4

地球中心主義の終わり

- 地動説革命: 17世紀、コペルニクス、ガリレオによる。
 - 天動説の根拠: 「日よ、とどまれ、ギブンの上に」(ヨシュア記10:12)。
- ニュートンの万有引力の法則は、天と地を同じ法則によって統一した。

5

人間中心主義の終わり

- 進化論革命: 19世紀、ダーウィンによる。
- ワトソンとクリックによってDNAの二重らせん構造が発見され(1953年)、生物の構造を分子レベルで解明することが可能となってきた。

6

無限な世界という幻想の終わり

- 地球環境の有限性(資源・大気)を認識するようになる。
 - 1962年、レイチェル・カーソン『沈黙の春』
 - 1972年、ローマクラブ『成長の限界』
 - 1973年、第一次石油ショック
 - 1997年、地球温暖化防止京都会議(COP3)



人間の特殊性・特定の人間類型の相対化

- 自然の一部に位置づけられた人間
- 種差別(speciesism)への批判
- 霊長類に関する知識の増大
- 遺伝学的な発見
- 白人種、男性、異性愛者という人間類型が支配的な力を行使してきたが、その不当性が指摘され始めてきた。

8

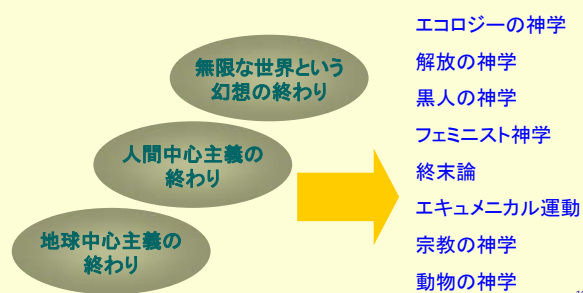
新たなコスモロジーの必要性

- 人類は進歩(進化)しているのか？
 - レイチェル・カーソン「こん棒をやたらとふりまわした洞穴時代の人間にくらべて少しも進歩せず、近代人は化学薬品を雨あられと生命あるものに浴びせかけた。・・・《自然の征服》——これは、人間が得意になって考え出した勝手な文句にすぎない。生物学、哲学のいわゆるネアンデルタール時代にできた言葉だ。

9

神学のパラダイム変換

——21世紀のコスモロジーを求めて——



10

最新！宗教情報 // No. 1

◎邦人観光客1人の死亡確認 バリ島同時テロ

【デンパサール（インドネシア・バリ島）2日共同】インドネシアの観光地バリ島で1日起きた同時爆弾テロで、ジャカルタの日本大使館は2日、日本人観光客の八戸大職員川崎昭雄さん（51）＝青森県黒石市出身＝の死亡を確認した。ほか日本人4人が負傷したという。

バリの警察当局は2日夜、爆弾テロは2つの地区の3カ所で発生し、自爆犯3人による犯行と断定。3人の遺体の顔写真と、レストランの客が撮影した1人のビデオ映像を公表した。警察によると、自爆犯を除く死者は外国人5人を含む19人となり、95人がなお入院中。病院などによると、外国人にはオーストラリア人が含まれ、負傷者は120人以上に上った。

インドネシアのユドヨノ大統領は同日、現場を訪れ徹底捜査を指示。治安当局は、国際テロ組織アルカイダと関係があるイスラム地下組織ジェマ・イスラミア（J I）など過激派の自爆テロとの見方を強めている。

自爆犯はジンバラン地区が2人、クタ地区が1人。遺体は損傷が激しいが、以前の大規模爆弾テロに比べ爆発力が弱かったとみられ、顔は識別できる状態。ビデオにはジーンズ姿の男がリュックを背負い、店に入って爆発する場面が写されていた。

病院などによると、負傷した日本人4人は、松田祐介さん（35）、武彦さん（34）の兄弟と、川崎さんの妻恵美さん（42）、ザイツ・アキトシさん（漢字不明）。川崎さんと恵美さんは新婚旅行中だった。インドネシアのテレビは当初、日本人とみられる「カワサキ・アイコ」という女性が死亡したと報じていたが、名前は川崎昭雄さんの誤りだったとみられる。また別の日本人1人が犠牲になり、オサカ・マツコさん（漢字不明）との情報があったが、在スラバヤ日本総領事館デンパサール出張駐在官事務所は「そのような事実は確認されていない」と否定した。

治安当局は2002年10月に202人が犠牲となったバリ島爆弾テロで、J Iの爆弾専門家アザハリ容疑者らマレーシア人2人を首謀者と断定。実行犯3人が死刑判決を受けたが、同容疑者は依然インドネシアに潜伏中とみられている。

川崎さんの家族は2日、現地に向け出発。3日にも到着の見通し。

◎トルコ首相がEUに決断促す、加盟問題で

【アンカラ（2005.10.02、AP）】トルコの欧州連合（EU）加盟交渉開始をめぐる緊急外相理事会を前に、トルコのエルドアン首相は2日、EUが世界勢力となるため困難に対処していくか、それともキリスト教国の集団にとどまるか決断する必要がある、とコメントした。

首相は首都アンカラ近郊で与党議員を前に演説を行い、欧州がトルコのEU加盟問題で歴史的岐路に立っているとの認識を表明。トルコは民主化と改革を進めており、「EUの決定が原因でこの軌道を逸脱することはない」と明言するとともに、加盟への努力が損なわれた場合は遺憾であると述べた。

また、ギュル外相は是が非でも交渉を開始する意志はないと述べ、トルコがEU加盟に向けて新たな条件や選択肢を受け入れる姿勢にないことを強調した。

緊急外相理事会は2日、ルクセンブルクで開かれる。トルコの加盟交渉は3日から予定されているが、オーストリアがトルコを準加盟国とする提案をしたことから、交渉開始が危ぶまれている。